

ノルウェー王国  
～ベルゲンでの留学生生活を終えて～

北海道教育大学 函館校 国際地域学科 国際共同グループ  
ノルウェー ベルゲン大学、humanity, 4年次、2018年1月～2018年12月  
城間千紗

私はノルウェーのベルゲン大学に一年間交換留学させていただきました。この一年間の留学は私にとってかけがえのない一年間になりました。私がベルゲンで感じたこと学んだことを本報告書にてお伝えしたいと思います。

私がベルゲン大学を留学先で選んだ理由として、学部の授業を受けられることが挙げられます。私は英語を勉強するというより英語を使って何かを学びたいと思ってたので、学部の授業を比較的低い段階でも受けれるベルゲン大学を選びました。私の望み通りベルゲン大学で学部の授業を受けることができましたが、それは私の想像以上に過酷なものとなりました。留学前から英語が特別得意ではなかった私にとって、専門的な話を英語で二時間も聞くことは気が滅入ることでした。しかし、授業の予習やディスニングの勉強をし、徐々に授業を理解することができました。

ベルゲン大学の特徴の1つとして世界各国のあらゆる国から留学生を受け入れておりいろんな国籍の人と出会えることです。主にヨーロッパからくる学生が多いのですが、イランやボリビア、ミャンマーやインドなど中東や南アメリカなどから来ている生徒にも出会うことができました。私がとっていた教育の授業では他国籍の生徒が多い中、それぞれの国の教育についてみんなで話したり、教育推進国として知られているノルウェーの教育制度を学ぶことで日本を見つめ直すいい機会になりました。また授業以外でもベルゲン大学が主催するイベントなどに参加することで、たくさんの国籍の人たちと交流し、文化の違いやそれぞれの生活、ベルゲンでの苦労話など様々なことを共有することができました。

ベルゲン大学には、日本語学科が存在しそこには日本語を学ぶノルウェー人がたくさん在籍しています。私の留学生活は彼らと過ごす事が多く、彼等からたくさんのことを学びました。平日は授業が終わると彼等が日本語を勉強している横で英語を勉強し、分からないことがあったらお互いに教え合うことができました。そして週末は彼等と一緒にパーティーをしたり、お出かけしたりと楽しい毎日を過ごすことができました。日本人と似てシャイな性格を持つと言われているノルウェー人。やはり、他のヨーロッパなどの西欧人と比べると物静かな部分が少しありましたが、他者に寛容的でとても暖かい心を持つ人たちでした。

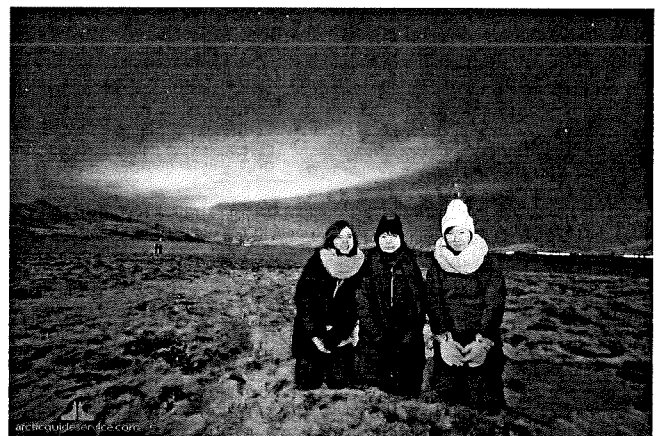
ノルウェーでは社会福祉と教育が充実している国として世界から関心が集められています。大学もほぼ無償で受けることができ、それは他国からきた留学生にも当てはまります。そしてノルウェーと日本の大きな違いとして大学を卒業した後の進路です。ノルウェーでは大学を卒業したら就職するという流れの日本とは違い、旅に出たり、違う分野の大学へ通い直したりと進路は様々です。私の友達にも軍隊に行ってから大学に通った人や看護師をしながら学校に通っている人、音楽関係の大学を出てからまったく違う分野の大学に通っている人など様々な境遇の人に出会いました。好きなこと、自分が追求したいことをいつでも学ぶことができる彼等は生き生きとしており、日本人の私からは少し羨ましく感じる部分がありました。

以上が私のノルウェーでの一年での留学を通し感じ、学んだことです。私の留學生活は様々な国の人たちと交流し、また、ノルウェーという国に入りノルウェーについて深く知ることができ充実した一年になりました。日本と違う国で暮らすことはたくさんの苦勞がありました。今となっては全てが自分の力になったと感じています。

最後に留学をしたい皆さんにアドバイスするとしたら、留学を通して自分がどういう人になりたいか具体的にイメージをしてから留学へ行くことをオススメします。海外へ出るということは、日本で暮らすより大変なことがたくさんありチャレンジの連続です。周りに友達はいませんが、自分が倒れないように支えることができるのは自分だけです。強い信念を持ち、積極的に行動しないと道は開けません。強い信念を持ち、皆さんが充実した留學生活を送れるよう心から願っています。



・帰国直前のお別れパーティー



・トロムソにオーロラを見に行きました



ベルゲンの市街地近くの湖と山に



フランス人とデンマーク人の友達



日本語学科の生徒とのパーティー